

B 虫歯予防学級

前回の本研究で報告したように1才6カ月児のむし歯罹患率は20.4%に達し、罹患者の1人平均むし歯保有数は3.3本と予想以上に高率であった。また私たちの調査でも3才児のむし歯罹患率は77.9%で、幼児期はじめにむし歯が急増しやすい。この年齢層の治療は多くの困難を伴うので、予防に対策の重点が向けられるのは当然といえよう。

幼児期のむし歯発生原因の主体は誤れる食事習慣ことにおやつとの与え方にあるとの考えのもとに、3日間づつの詳細な子どもの食事調査表の提出を求め、個人別の食事習慣の理解と指導に当たっている。また口腔内の清潔、ブラーク染め出し、(母親と子どもの両者)歯磨き実習などを実施している。学級は1才7月、1才8月、2才、2才4月の4回、1回当たり1時間半づつとし、修了証書を渡している。

表4. 虫歯予防学級の参加希望数と実際の入級者数

昭和54年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
18カ月健診受診者数	69	67	69	84	78	70	82	67	73	63	67	81	870
参加希望者数	18	19	24	25	26	19	14	16	18	20	18	31	248
実際の新入級者数	7	8	11	19	12	17	9	4	7	6	8	11	119
1カ月間の延人数	21	21	33	49	36	31	33	19	30	26	25	31	355

フッ素塗布につき最近いろいろの問題が唱えられているので、私たちは現在は食事指導と口腔内清掃に全力をそそぎ、その結果をみってから改めてフッ素塗布の実施については検討することになっている。

虫歯予防学級の昭和54年の月別の参加者は表4の通りである。

18カ月健診の受診者870人中この学級への参加希望者は248人(28.5%)もあるにもかかわらず、実際に毎月ごとに新しく学級に参加するものが119人(受診者の13.7%)と少ないのは表4の事前調査の項にあるように、参加できる前提条件として連続3日間の全食事摂取調査表の前もってのセンターへの郵送が義務づけられているためと思われる。従って一度参加したものの途中脱落者は少ない。

学級参加者の経過中のむし歯発生はきわめて少ないが詳細は次回に発表の予定である。

3才児の身体発育一とくに出生時体重との関連一

研究協力者 飯島 昌夫 ・ 中原 朗子
(戸田市健康管理センター)

研究目的

出生時の体の大きさが後の体の発達、ことに幼児期の身心の発達にどのような影響を及ぼしているのであろうか。最近よく「小さく生んで大きく育てる」などと云われるが、果していつ頃に、

どの程度に大きくなるのであろうか。乳児期にさまざまな体重をもち、不安を感じている母親に対し、適切な保健指導を実施するためにも、出生時の体の大きさとそれ以後の発育の変化を知ることが重要である。

今回、私たちは3才児の体と心の発達と出生時体重との関連を検討したので報告する。

調査成績

出生時の体の大きさが、その後の体や行動発達の間でどのような影響を及ぼすかについて検討した。

3才児健診受診者1974人を対象とし、出生時の体重をもとに2500g以下、4000g以上とその中間の3群に分類して、3才の身体の発達との関連を検討したし、次の結果を得た。(表1)

① 3才4カ月児の身体発育をみると、体重・

身長・胸囲・頭囲のすべてが、出生時体重の大なるものほど平均値が大であった。(表2)各々の相関係数は、体重0.32、身長0.28、胸囲0.23、頭囲0.27であった。(表3)

② 出生から3才までの「伸び」を各群で比較すると、いずれの群も出生体重の小さいものに増加傾向が著明であった。(表4)

③ 行動発達のスクリーニング調査では、出生体重の小さい群に「問題あり」が多くみられ、項目別には食事、排泄、着衣などの項目で有意の遅れがみられた。(表5、表6)

表1. 各群の対象人数

対象	出生体重		2500 < 4000	4000 ≤	合計
	2500 ≥	37週 > / 37週 ≤			
人数	24	68	1778	51	1921

表2. 出生時体重別にみた3才児の身体発育(計測)値

3才児計測値	出生体重		2500 < 4000	4000 ≤
	2500 ≥	37週 > / 37週 ≤		
体重(kg)	13.7 ± 1.6	13.7 ± 1.6	14.5 ± 1.5	15.4 ± 1.7
身長(cm)	92.7 ± 3.1	93.0 ± 3.3	94.7 ± 2.9	96.2 ± 2.6
胸囲(cm)	50.5 ± 2.7	50.6 ± 2.7	51.6 ± 2.5	52.9 ± 2.2
頭囲(cm)	49.3 ± 1.8	49.1 ± 1.4	49.6 ± 1.5	50.3 ± 1.4

表3. 出生時体重と3才児身体発育との相関

	体重	身長	胸囲	頭囲
相関係数	0.32	0.28	0.23	0.27

表4. 出生時体重と「3才までの伸び」との関係

出生時～3才までの伸び	出生体重		2500 < 4000	4000 ≤
	2500 ≥	37週 > / 37週 ≤		
体重(kg)	11.5 ± 1.4	11.5 ± 1.6	11.3 ± 1.5	11.2 ± 1.6
身長(cm)	49.1 ± 3.5	47.1 ± 3.9	45.3 ± 3.4	44.3 ± 3.2
胸囲(cm)	22.1 ± 2.9	21.2 ± 3.2	19.0 ± 2.6	17.2 ± 2.4
頭囲(cm)	19.1 ± 2.0	18.4 ± 1.9	16.6 ± 1.8	15.4 ± 1.6

表5. 出生体重別にみた3才児の行動発達(1次スクリーニング)

出生体重 行動発達	2500 \geq		2500 > 4000	4000 \leq
	37週>	37週 \leq		
人数	24	68	1778	50
問題あり(人)	12	35	707	19
百分率(%)	50.0	51.5	39.8	38.0

表6. 項目別にみた行動発達問題(1次スクリーニング)

項目		出生体重		2500 \leq		2500~4000		4000 \leq	
		人数		97		1778		51	
		問題	あり	%	あり	%	あり	%	
言語		11	11.3	197	11.1	6	11.8		
運動		2	2.1	65	3.7	0	0		
生活習慣	排泄	26	26.8	398	22.4	11	21.6		
	食事	39	40.2	438	24.6	9	17.7		
	着衣	25	25.8	398	22.4	10	19.6		
	就寝	16	16.5	257	14.5	7	13.7		
習癖		20	20.6	389	21.9	13	25.5		
不安		17	17.5	247	13.9	5	9.8		
交友		3	3.1	94	5.3	2	3.9		



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

出生時の体の大きさが後の体の発達,ことに幼児期の身心の発達にどのような影響を及ぼしているのであろうか。最近によく「小さく生んで大きく育てる」などと云われるが,果していつ頃に,どの程度に大きくなるのであろうか。乳児期にさまざまな体重をもち,不安を感じている母親に対し,適切な保健指導を実施するためにも,出生時の体の大きさとそれ以後の発育の変化を知ることは重要である。